



古今武士形氣

古今武士形氣
小冊子

特別
A13
4453
1





古今武士形氣卷第一

目録

神宮家圖書記

一 孫傳みづめぐも 老本やうほんの花はな汁じゅう伝でん

年としの末すえに於おけりて 人の首くびのさし
生なまれ伝でんの丸まる顔がほを 抱かかりて 伝でんのま
竹たけ箒はらふ女をのちり 仍なほ傳でんのさし

二 多おほふ足あし込こむ 山やま吹かぜ乃の夢ゆめり

日ひ年とし乃の乃の中ちゆうや 山やま吹かぜのさし
情なさけ乃の命いのち乞こひのさし
所ところ治ちハ 心こころひと 孫まご志しる



三

書中乃時を

暇場を女は嬉し
命とを別より事
あひひのあはれ三人の事

泳めつけーや本の花の比

水府の茶ありあふうー板とれ小書付をるにせ
よの隙子着とけく大指流の愛を中をまをれいぬ
人ゆせとせはさるいんぬさー出に候おせるおを
書中の門おあ小形指の松福らそそ凌者かつた
乃やうげ小嘆これな小夏菊他りあて井の水
流る七約瓶れ立来ふとあり鳥乃おーく尾張とく
てー活人ふあいつりまをのやと終と終一法乃を
と賣哈小一目紙書一と指物夕入なとくハ同年の品
かりを人基れおひたりも外一のはさの陳一王も
てあそびかりふも同へあーあは日志とりの小指
み乃ゆとあさし鳥の扇とあのとあそ書といふて



乃水多るに独りの親仁乃乃汗と流し多るは友と
せし年奇後法とんとかくとあはれおと有骨の
ゆれれまじと接おろし細らりあこの皺と想ひ
洞小あひとも歌一曲掩明鏡昨日少年今日白頭
と他り一色け方のかりあひひく今く思ひ色あ
やさんさあしとせと相譲りゆくとまふま
なかり湯れあふあゆまてあけとよれほせなま
とふれ一小子細成中あけ人乃生圓い花あのか
下小ありしむい玉はま水とく美歌小苑を
おろく情多小女筋かてん人さうふ程あり又の独
りいさ田ま右あつとく民衆おろつあぬぬあり
ま水小ぬく悩む又ま右あつとく小あひ付十六十

九の年よりあ乃のかういぬくまに海の中道
くあひとまじし中小外よりま水と抱ひばりや
む小あひに電山の火揚焼つる所へあまこわりて
あ方た小かり。園と幸れ橋小出首尾とあま
と物たかゆに打とあ。も和思ひく木の丸乃
園と練く牙のうに涙より舟小丸糸せらば
力とかり今家小漁りぬと年ま水い六十三判
八十六まで青い髪ぬぼの武人た小一生女の
と色えんとい年と世とさうい思恋乃児とぬる温めん
今もまじま水とあ年のとくあひつとそまはあかに
鳥籠小花のあともれまじ小橋かともおし
ととあくあひ小け入の角と入るあまのあし生付の

九頼くわんはそりし不ふび色いろのみと忘れわすれりて壺打つぼうちの揚あげ
 るぬれく齒くとえんぐゝぬれとぬれにまらぬ人のさへハ
 か所ところ分わけらるよやふまう。されハ大おほ名なの情なさけのふた
 木き持もちのり。妻つま子のあはれと色いろ何なんとあゝあはるの時ときと
 忘れわすれを結むすぬぬしといひ神かみ持もちあはれはとふふ女めはな
 い各おの別べつあはれ多おほかり女めかりあはれあはれの美うたはけ
 乃なふりてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 女の風かぜ俗しやくと世よ小こ住すみあがく東あづま漢かんといふのあかりと色いろせに
 人のこく自然しぜんの交まじぬいさひ小こ湯ゆ釜かまにあはれおのれ
 らは換かへし家いへ小こ出で合あひらひとくはは城しろ小こかた流なが亭てい
 主しゆとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 おしとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 おしとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて



地ふりの流白といは河童切角。天を解り地小祇より
くさる足喜向より男女とやいけ男の時よりとやあ
るかといふしつし出祓め女の時の戸口とよしあ十月のふふ
ありくさるしつしつぬまきと時ぬの定めあや備よふりくしてあ
るれとちりくくふさふの心持と備まれに女中一はれ
まさらば実入の形法と使小の所おし進付りかひん
一茶涌をそと噴方まであそびく傘と備く括み
ふりく々食を振振い喰くゆえふた家へいふあふた
五許とたの所女戸とやいけゆく因縁歌の所面敷と
とらとえあつ竹箒と括出しとよしとこのけとあけ
の進立も伝ふかりた所と角くつふまを地とぬり屋水と
うら清り先後女嬉いには戸廣しとせせ又んこのあ

色啼に極い寺乃建然

紀統と日月乃れぬ花整の風。是又見ん久れた長秋
とら世れとやかり人の身乃養理死後つまぬた
抱いかりとふれぬ後の世れゆの光来の長生のま
ふと遠く語の目い抱や喰く年月等と何んぬの飛か
一尾列熱田乃夫の宿の山進ふ三途川の橋本像中
てまあふけし所性来のふけとふた死出乃括人あふ
いけ地の削りともあふべ一とほ世小住法どく。家よ
墓あれた人の身の程物良の種あふ鳥の花整りましけ
るかとうさるれ。當社画の山門小祇役のあふた大
中井兵部大丈一子小大とつらあり同ド祇職小
も三川林太丈とせし人の及小外紀とくし年十八

乃角お愛いし美きとてあまのいもりやくや念ふ
ふかり大慈とりかり二年あまの心八級小命と
極く誓紙とすい小傷りやく時書り小教の深くと
りと極りいんてはる時本張のあまのいもり小あま
違わもてまの信ちのあまのいもり小あま
あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり
け証鏡仲と打鳴り本堂あ殿裏り佛と初に出
さまのいもり小あまのいもり小あまのいもり
ふ世あ代とすい細くさるれ作り庭とのし早
種小とあまのいもり小あまのいもり小あまのいもり
はとれとすいあまのいもり小あまのいもり小あまのいもり
てあまのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり

目んふとれけか所と大慈とてあまのいもり小あまのいもり
そのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり
りともあまのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり
おほむとすいあまのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり
い物とすいあまのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり
い物とすいあまのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり
とすいあまのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり
あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり
果のりらいと時を自分の親あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり
とすいあまのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり
ていもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり
あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり小あまのいもり



けいごう 春にお抽のりくくも有る一 夏鬼のいさ
命の情じいあ。親教のしきくもてはるにさうり
大趣もむげゆも格小波とつゝぬたさあの松栢を
枯のへ一 共終の枝子も事の外小あて外記の命乃
種とのあへん 儀も儀教と大趣のつり小とさう
子小あて格依つせさた教ひつりくPあけしに
は食儀のほゆゆさうさうゆかて切抜ささせま
乃依よ任せも格P後一もたかきま一とさひ格
めりもあれい今文小の依ゆりあ。も用さ
てゆのくく小P多る大趣お果。おあれびもゆく
うたはとらんどうあれたる一 教ひ小任せ年以
教り津蓮さうととP多るいそもせ小とさひひ

大趣ゆり戸さう一 妻方もふうらゆく自教米小長終の
儀黄袴とゆさうい大お髪と結せし内風情乃さ小舞の
うゆりくえとくく魂いあくさうはくといふ舞と
きさうり乃とさう観紙小筆と帯りうさうかせく
大趣親さう一 両月りあれたの系かへとくと書結し
種あくゆちいあれいも格小つらんさうの一大ゆさひ
り。まぬまのよ小座して皆小礼等とおのへ小脇
指ひれかど。今さうさう一 夏十口あある美女乃
あつた練被せし。外記小あつた自と依りあ結り
とさひ格ゆりも格外記いゆくさくあてけ首
さうあつたの遠感いゆあつたゆとさうめ格
外一に外記親林たま源とお入も方愛もあつた事

ふわくはげ息女は遠く清は奥つひに一人旅の娘禁
たどりののれの中おれたつは涙はかみふあひあつに
のく年久く思ひく往來もせりありのいして
おとりのよとま度うん席にひくは恥小成埋
小物来し来年の春の日は女房うまおとりあつて
目出度よひ入くま方妻にせんと思ひし申とあつ
よなり。さあおに世のかめやとい新に成す人又あつ
まなく涙とありさうおに女ん是と命のさうとを
く小情む小そ大程親無終太史一命小掛てか
さうして小折折りわけおひのま命とん情外記
おまふか。別れ始とりひく後云のふんとり
とれと家とゆつり親子かこひとあ計る

書中の附名

越前の四湯尾崎の茶屋の軒端より大さな女
あやうととあるとて孫おやうとて癒癒あつ
おれとおひと海内の必死の堂とて親親の場
りゆらと埋てそのあつりわらやんおの親乃
るのちやづら残かげうぬいなりされども女のみま
はわりてもまのまきううび。歌の世の中なれん
それくのあお銀とて一人もあまうび只かこ
の男のみおらり。さあう一人の形はうりては思を
のせりひとあう。さあのうら枕の無ももたう物
糸の乃らうとてうら極られ十あふもうらび極とぬ
さうに世に抱ひ人もたう。帯の糸の糸の糸

りん風もよびてい時のよとぞあつたわな
 とはくしちりりあもがらけふたもつる横田
 わらわのまたいのあな殿だ累りてまがらこの
 のハ富士の乳多かきいして酒湯の総一配
 らたのまきわけて宮宮肌とほじくま
 て一歩中をげこの毎約ごりり乃紙が
 の相うくそとつたはあやとるあ
 せはまきの飛のこまよく修せられたる
 くふおのしとくろ子けふおおの
 藤系池ハ氷よあまのすじりあ
 人細く成ゆるるそのふひよあ
 現すはとせとくは目ふかけんとひら

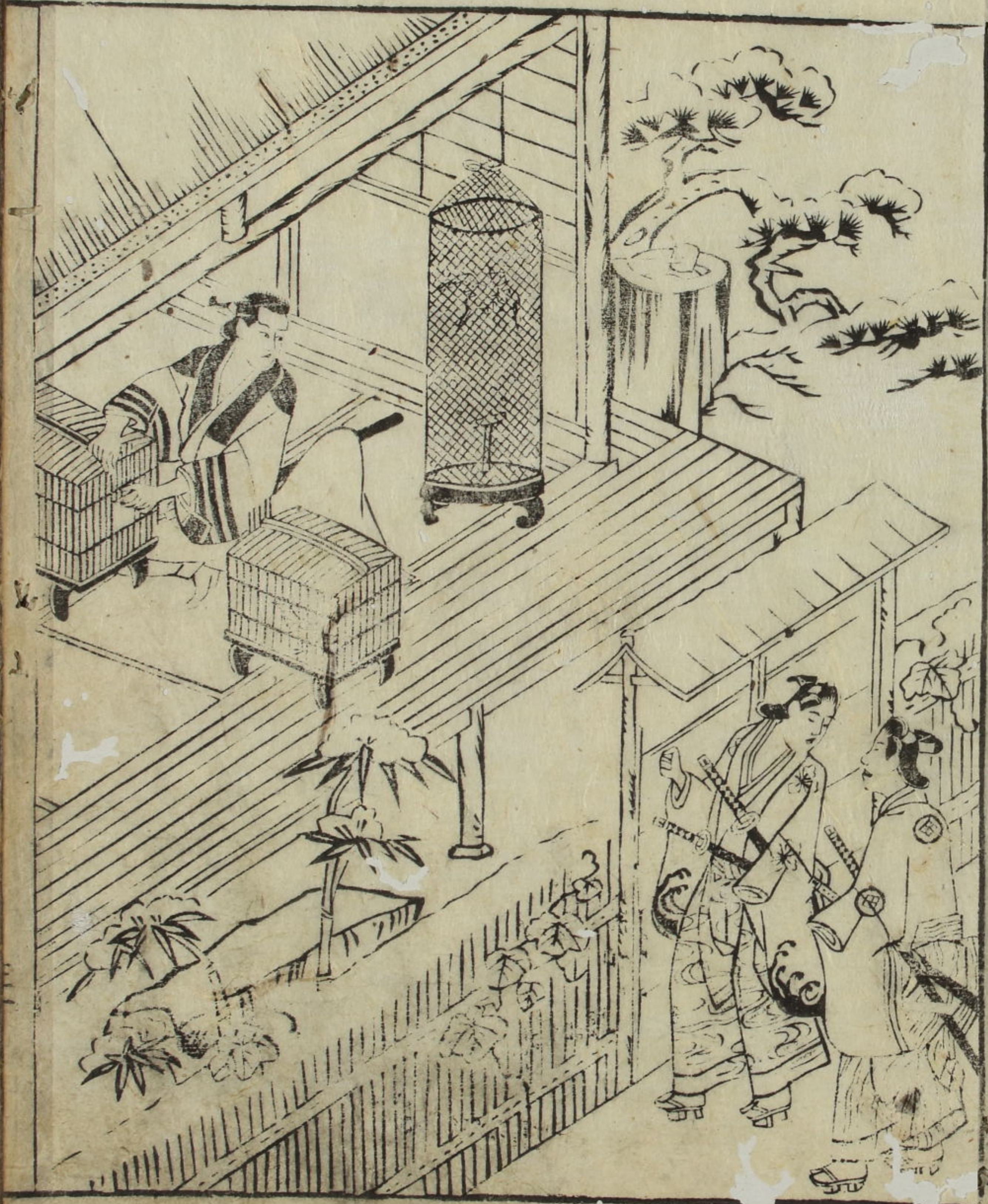
りん風もよびてい時のよとぞあつたわな
 とはくしちりりあもがらけふたもつる横田
 わらわのまたいのあな殿だ累りてまがらこの
 のハ富士の乳多かきいして酒湯の総一配
 らたのまきわけて宮宮肌とほじくま
 て一歩中をげこの毎約ごりり乃紙が
 の相うくそとつたはあやとるあ
 せはまきの飛のこまよく修せられたる
 くふおのしとくろ子けふおおの
 藤系池ハ氷よあまのすじりあ
 人細く成ゆるるそのふひよあ
 現すはとせとくは目ふかけんとひら

出、一、う、ま、ゆ、り、じ、と、せ、し、る、ハ、ゆ、り、な、り、吉、所、
 工、居、極、へ、う、し、わ、く、居、な、り、定、て、大、分、の、由、忍、飲、
 ち、ふ、べ、し、敷、切、い、ま、さ、し、り、と、い、ふ、ま、も、わ、ん、ど、と、
 り、く、し、て、顔、色、か、ろ、り、米、朝、の、及、く、人、と、さ、ん、て、
 居、り、く、し、げ、の、び、極、り、せ、ば、考、申、し、つ、ま、さ、さ、
 お、ど、ろ、く、申、お、も、し、と、し、人、さ、し、わ、く、的、て、
 の、つ、ろ、く、ゆ、ら、く、死、候、裏、の、人、物、成、か、れ、も、
 と、用、て、う、ろ、ふ、後、つ、わ、を、は、び、ぞ、ん、く、ま、た、く、
 と、う、は、と、う、ら、に、ほ、ろ、と、さ、と、く、と、か、あ、
 ち、ら、あ、程、お、大、敷、の、由、身、お、ま、ま、さ、く、さ、
 兵、隊、わ、つ、付、物、お、な、れ、と、居、お、は、が、の、の、め、
 の、人、お、う、ろ、し、京、女、房、お、か、ざ、り、ま、く、

一、角、判、系、乃、り、わ、り、お、さ、う、の、教、育、は、
 進、ば、お、の、く、ら、に、お、青、の、層、わ、り、て、
 堂、と、お、わ、れ、板、お、お、お、り、及、お、は、
 の、色、お、い、ま、び、く、て、新、の、色、様、
 一、お、紙、奥、お、お、し、り、わ、り、て、
 顔、と、り、て、松、の、丸、お、し、く、と、
 ち、お、お、な、り、お、髪、の、髪、
 お、お、お、お、お、お、お、お、
 ち、お、お、お、お、お、お、お、
 ち、お、お、お、お、お、お、お、
 ち、お、お、お、お、お、お、お、

うりかぐろ 葉肉とよめおや女もたると結ぶ
 申て色入ぬくらばまして見と向く抱へ苦
 紅深きうりて珍ひなりひらりわらわら
 の由ん帯に色紙ましく肉もも肉中は入まど
 ままうらわひよの知ら向なり女の元治
 りあしと改つともう入まひをゆきもわか
 らぬわつううバ天晴るまあどわかして
 ともくお女様ひも世よ又わらうのくお
 く屋敷へぬりつう進ぬららに水小性結
 同記下川園分十六十七のさつあうその
 時うはつうお老の首尾とんくのゆい合
 ともくけけけを屋敷二軒ぞうりこ

ともくお女様ひも世よ又わらうのくお
 く屋敷へぬりつう進ぬららに水小性結
 同記下川園分十六十七のさつあうその
 時うはつうお老の首尾とんくのゆい合
 ともくけけけを屋敷二軒ぞうりこ
 ともくお女様ひも世よ又わらうのくお
 く屋敷へぬりつう進ぬららに水小性結
 同記下川園分十六十七のさつあうその
 時うはつうお老の首尾とんくのゆい合
 ともくけけけを屋敷二軒ぞうりこ
 ともくお女様ひも世よ又わらうのくお
 く屋敷へぬりつう進ぬららに水小性結
 同記下川園分十六十七のさつあうその
 時うはつうお老の首尾とんくのゆい合
 ともくけけけを屋敷二軒ぞうりこ



まがほりさきかたりとす。相おはせり。のあらうと
ええとよりおれあより一會はあん一あふあふ
あが格うあべーと二押の介とさあ人あはせ
えさのきくくけなとあさこの房つさの
丸鏡をさげ門あか下人とまのさ大極鏡ひ
と何枚肉あわづけて極回と押りさ首尾あ
あなりささ転まる。周分周礼穿人屋あへ
のび来と魚の礼養きくくわのさくわ
そめかきくさしあむあさあ人なりあ後
あ人ああは入まーそれともああああ
ささささあそれとせばあはさあささ
はさささあさあああああああああ

